

# 耳に、人に優しい 骨伝導ヘッドホン。用途は無限大

ゴールドダンスの中谷氏が、耳に優しい骨伝導の利点にほれ込み「人に喜んでもらいたい」という一心で開発に取り組んだ「オーディオボーン」は、一般のヘッドホンと変わらない優れた音質とデザイン性を備え、従来の骨伝導ヘッドホンのイメージを刷新した。その成果は2年で4万台という販売数字に表れている。

もともと専業主婦だった中谷氏はあるとき、骨伝導補聴器の存在を知り、耳をふさいでも鮮明に音が聞こえることに驚いたという。脳に音を伝えるのは耳の奥にある蝸牛カタツムリという器官。通常、音は鼓膜の振動を経て蝸牛に伝わるが、頭蓋骨から蝸牛に振動を直接伝えることもできる。この仕組みを活かしたのが骨伝導の技術だ。事故で難聴になった知人にこの補聴器を紹介したところ「10年ぶりに夫婦で会話ができた」と喜ばれ、「この喜びをできるだけ多くの人に」と販売代理業をスタートさせた。

「デザインが悪いアンプの存在が気になる」「音質が悪い」。購入者と同じに接していると、さまざまな要望が浮かび上がってきた。一方で一般のヘッドホンは、大音量で音楽を聴き続けると騒音性難聴を招くおそれがあり、自転車に乗りながらだと周囲の音が聞こえず事故にも繋がりやすい。鼓膜を介さず、耳をふさぐことのない骨伝導はこうした問題の解決策にもなる。だが、生の声を開発に活かしてもらおうとメーカーに進言しても、とりあってもらえず、一般の人にももっと広めたいという想いは募るばかり。「それなら自分でつくるしかない」と2年前に一念発起し、自前で開発に着手することにした。会社員の夫も加わって、低音域の音をカバーし、かつアンプ不要で小型、高性能の振動子が完成（現在特許申請中）、2005年11月に「オーディオボーン」の発売にこぎつけた。

「資金も経験もない二人がそこまでたどり着けたのは、人に喜ばれたいという想いから」と振り返る。耳にストレスのかかるコールセンターの従事者向け、大騒音の工場での職員のコミュニケーション用に、とその後も次々に新製品を開発。要望の多い聴力補助器も近日販売予定で「まだまださまざまな現場に用途はある」と、耳に優しい骨伝導ヘッドホンの可能性に挑んでいる。

## 商品

防水機能を備えた「オーディオボーンアクア」。4色展開で、値段も手ごろ。9月の発売開始後、店頭で入荷待ち状態が続くほどの人気ぶりだ。



## ゴールドダンス株式会社

<http://www.goldendance.co.jp/>

TEL 06-4255-3030

代表取締役&CEO

中谷 明子 氏

「国籍・人種にとらわれず、地球人としての感覚を持ち、全世界にオーディオボーンを広げたい」と話す。来年1月には、ラスベガスで世界最大の展示会に出展する。